

6月のできごと

玄関先も明るい雰囲気



5月31日 ボランティアサークルさくら草(代表岩佐喜久子さん)によるプランター設置がぬくもりセンターで行われ、施設利用者の目を楽させています。

設置されたプランターは、北海道地域活動振興協会の助成を受け購入したもので、8月下旬までさくら草のメンバーにより花の管理が行われます。

一投に勝負を賭けて

5月29日全道高齢者ペタンク大会(20チーム参加)が開催されました。参加者の平均年齢は70歳。開会式では、最高齢者(男性86歳・女性83歳)表彰もあり、I・N・E安平(板倉・中村・餌取組)もねんりんピック出場をかけた決勝進出を目指しました。

また、6月12日に開催された第12回ホスピタリティー安平ペタンク大会は、被災地岩手県や道内から64チームの参加があり、町内から出場した6チームは好調に予選を突破。決勝では安平E(楽間・舛田組)が優勝を飾りました。



チェンバロコンサート

ソプラノ歌手根深さん(追分若草)のロビーコンサートでは色々な音楽を聞くことができずすが、今回はとてもめずらしい楽器の演奏とともに開催されました。

6月5日追分公民館のロビーに置かれたチェンバロ(英語ではハープシコード)はパロック音楽に欠かせない楽器の一つでピアノの源流とも言われています。見た目は似ていますがまったく違う構造を持ち独特の音色を奏でます。その繊細なチェンバロの音色と根深さんらの歌声は訪れたお客さんを魅了していました。



鹿公園でチャレンジ塾

6月4日チャレンジ塾が鹿公園で実施されました。

町内から集まった小学生は、地図を片手にオリエンテーリングを行い公園内に隠されたクイズをクリアしてゴールを目指します。

曇り空の肌寒い1日でしたが元気いっぱい楽しく汗を流していました。



鹿公園を利用しませんか

鹿公園は、日本最古の保健保安林として明治35(1902)年7月に国から指定を受けています。

当時、既に鉄道は開通していたものの「周囲一体が大木の原始密林地帯であったその中で、何故ここが日本で最も早く保



健保安林に指定されたかという疑問については解明できない。林野庁の保安林指定台帳の理由の欄には「不詳」とのみ記されているという。」(追分町史抜粋)とありますが、現在に至っては駅から500m程しか離れていない場所にこれほどの自然を保ち、町民の憩いの場として整備されていることはとても意義のある指定だったと思います。

町では3年前からパークゴルフ場・アスレチック施設・ドッグランなどの公園整備を行い、町民の憩いの場を充実させています。

今年の春からすべての施設が利用ができるようになりましたので、身近な公園に一度足を運んでみてはどうでしょう。